

松山赤十字病院  
〒790-8584 松山県松山市文京町1  
電話089-922-2111

保有する病棟と機能区分の選択状況(2016(平成28)年7月1日時点の備前)

病棟の機能区分	病棟名																	
高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟
急性期																		
回復期																		
慢性期																		
休養中、休養後の再開の予定なし、休養・退止予定、無回答等	13病棟																	

保有する病棟と機能区分の選択状況(6年が経過した日における病床の備前の予定)

病棟の機能区分	病棟名																	
高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟
急性期																		
回復期																		
慢性期																		
休養中、休養後の再開の予定なし、休養・退止予定、無回答等	13病棟																	

(留意事項)

- 公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解釈については、医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。
- また、公表している項目の中には、個人情報保護法の観点から、10以上10未満の値を「\*」で処理している項目があります。
- 「未確認」とされている情報は、本報告や報告内容の不整合があったことから確認が必要な情報になります。
- 施設全体の欄では、内容に「\*」が未確認とされている情報が含まれている場合に「未」を記載しています。
- 「-」とされている情報は、任意の報告項目や報告が不要となる場合、留意すべき報告対象期間について特段の情報がない場合に記載されています。

基本情報(職員配置、届出の状況など)

患者の入退院等の状況

医療内容に関する情報(手術、リハビリテーションの実施状況など)

- 病院の概要
- 医療科
- 入院患者数・特等入院料及び収入増収状況
- 算定人員数・特等入院料算定の状況
- 2016年度職員数・職員数
- 職員配置状況、二次救急隊員数、三次救急隊員数等の名称・担当の状況
- 医療報酬の届出の状況
- 施設長の氏名
- 医療従事者への教育状況
- 医療従事者の数
- 過去5年間の入院・検診の実績(算定)が約1.5倍

- 入院患者の状況(年間)
- 入院患者の状況(内訳)入院前日帰り・退院後の帰院の状況
- 入院料(平均)・入院患者数(平均)・入院患者の状況
- 算定された職員数

- 手術の状況
- 2016年度、手術件数、手術、手術検診への状況状況
- 手術費への状況状況
- 手術費の算定状況
- 手術費の算定状況、手術費の算定の状況
- 手術費の状況
- 手術費の算定の状況
- 手術費の算定の状況
- 手術費の算定の状況
- 手術費の算定の状況

◆基本情報（職員配置、届出の状況など）  
前表の公表

			(項目の解説)																			
施設種別	許可病床	上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
一般病床	許可病床	上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数	861床	4床	35床	45床	47床	50床	50床	47床	4床	4床	4床	6床	49床	52床	60床	49床	50床	45床	49床	31床
	種別病床		208床	0床	18床	28床	28床	28床	28床	30床	0床	0床	0床	0床	12床	0床	0床	0床	0床	18床	18床	0床
療養病床	許可病床		861床	4床	35床	45床	47床	50床	47床	4床	4床	4床	6床	49床	52床	60床	49床	50床	45床	49床	31床	
	55分療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	55分療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	55分療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

診療科

			(項目の解説)																						
主とする診療科	種別ある場合、上位3つ	主とする診療科は、前記以上の数者を診療している診療科を示しています。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟			
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等	
主とする診療科	種別ある場合、上位3つ		管理科	-	-	-	-	-	-	-	産婦人科	-	-	-	小児科	-	-	-	-	-	-	-	-		
			内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			救急科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



DPO医療機関の評価

(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	39病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
DPO医療機関の評価	DPO制度とは、急性期の入院医療を担う医療機関において、患者に対し、入院目的に合わせた医療や診療の提供を追求する制度です。この項目は、DPO制度の対象となる病棟の特性を以下の通り、特性や構成によって評価の要素の設けが異なります。■ 評価が大学病院未満、■ 評価が大学病院未満に等しいと評価、■ 評価がそれ以上の評価となる	■ 評価																			

救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無

(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	39病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、事故や急病等による救急患者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、緊急搬送患者が認められた場合に、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を有日・夜間・受け入れ医療機関と二次救急医療施設といえます。さらに、二次救急では対応できない重症な救急患者を24時間体制で受け入れる医療機関を三次救急医療施設と呼びます。	■ 有																			
二次救急医療施設の認定の有無		■ 有																			
三次救急医療施設の認定の有無		■ 無																			

診療報酬の届出の有無

(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	39病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
総合入院体制加算の届出の有無	総合入院体制加算とは、十分な人員配置および設備を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間体制で実施する医療機関としての認定のことです。	■ 届出あり																			
在宅療養支援病棟の届出の有無	在宅療養支援病棟とは、24時間体制が可能な体制を確保し、また訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な医療施設のことです。	■ 無																			
在宅療養後方支援病棟の届出の有無	在宅療養後方支援病棟とは、在宅医療を受けている患者の急性期・重症・緊急入院を受け入れるための病床を確保し、24時間体制です。	■ 無																			

職員数の状況

		(項目の解説)																					
職階	職名	職員数は、医療機関内の各部門に配置されている職員数です。	医師全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	22病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
看護師	医師		819人	14人	1人	29人	31人	32人	32人	32人	1人	12人	14人	12人	33人	24人	41人	33人	32人	28人	32人	28人	9人
	非常勤		755人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	実数		9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	9人
看護補助	医師	【参考】理学療法士 座り、立つ、歩くなどの基本動作ができるように、身体の基本的機能の回復を促すためのリハビリテーションの専門職です。能力や関節可動域などの身体機能を改善する運動療法を講じ、退院、歩行、車椅子などを用いて、痛みや腫脹の改善を図る物理療法を行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人
製造師	医師	【参考】作業療法士 日常生活、職業生活など日常生活を促す必要となる機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。作業療法の内容には、土ま、陶芸、製菓、縫製、木工、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人
理学療法士	医師	【参考】言語聴覚士 患者の話し、書きなど日常生活を促す必要となる機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。言語聴覚の内容には、土ま、陶芸、製菓、縫製、木工、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人
作業療法士	医師	【参考】言語聴覚士 患者の話し、書きなど日常生活を促す必要となる機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。言語聴覚の内容には、土ま、陶芸、製菓、縫製、木工、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人
薬剤師	医師	【参考】薬剤師 患者の話し、書きなど日常生活を促す必要となる機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。薬剤師の内容には、土ま、陶芸、製菓、縫製、木工、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人
臨床工学士	医師	【参考】臨床工学士 患者の話し、書きなど日常生活を促す必要となる機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。臨床工学士の内容には、土ま、陶芸、製菓、縫製、木工、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	69人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	非常勤		6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人
	実数		75人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人	66人

			施設全体	業務以外の部門		
(項目の範囲)				手帳室	派遣部門	その他
警備員	実働	職員数は、関係機関内の各部門に配置されている職員数です。	41人	21人	119人	
	非常勤		22人	31.6人	310人	
案内係	実働	(参考)理学療法士 視力、聴力、歩行などの基本動作ができるように、身体の基本的機能の回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。院内や訪問可能な身体機能を改善する治療効果を得たり、姿勢、光線、電気などを用いて、痛みや回復の改善を図る治療法を行っています。	0人	0人	0人	
	非常勤		0人	0人	0人	
看護補助員	実働	(参考)理学療法士 視力、聴力、歩行などの基本動作ができるように、身体の基本的機能の回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。院内や訪問可能な身体機能を改善する治療効果を得たり、姿勢、光線、電気などを用いて、痛みや回復の改善を図る治療法を行っています。	0人	0人	0人	
	非常勤		0人	2.6人	58人	
理学療法士	実働	(参考)作業療法士 指を動かす、食事をするなど日常生活を送る上で必要な様々な動作の回復・練習をサポートするリハビリテーションの専門職です。作業療法の手帳には、本音、聞き、触覚、料理、手芸、縫製、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	0人	1人	0人	
	非常勤		0人	0人	18人	
理学療法士	非常勤	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえているにもかかわらず、言葉が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	0人	
	非常勤		0人	0人	0人	
作業療法士	実働	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	0人	
	非常勤		0人	0人	0人	
作業療法士	非常勤	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	0人	
	非常勤		0人	0人	0人	
言語聴覚士	実働	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	4人	
	非常勤		0人	0人	0人	
薬剤師	実働	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	3人	
	非常勤		0人	0人	1人	
臨床工学士	実働	(参考)言語聴覚士 上手に話さない、音が聞こえないなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。聴覚が聞こえていない状態を明らかにし、対応法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスをしています。	0人	0人	18人	
	非常勤		0人	0人	0人	

遠隔調整部門の設置状況

			(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟		
				高	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期		
遠隔調整部門の有無	医師	専任	遠隔調整部門は、遠隔先の採計中、遠隔先に必要な採計指導や訪問看護、小児ナースの紹介等を行う部門設置です。この項目は、そうした部門の設置状況と、そこで勤務する職員の入数を示します。 (参考)MSW(マシナル・ソーシャルワーカー) 患者・家族の心理的、社会的問題の解決、調整を支援し、社会復帰の促進を図る専門職です。	有																					
		専任		0.5																					
遠隔調整部門に勤務する人数	看護職員	専任		0.5																					
	MSW	専任		3.5																					
		専任		0.5																					
	MSWのうち社会福祉士	専任		3.5																					
		専任		0.5																					
	事務員	専任		0.5																					
		専任		0.5																					
その他	専任	0.5																							
	専任	0.5																							

医療機器の台数

			(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
				台	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	
CT	スウェーデン製	64列以上	CTは、X線(放射線)を用いて、身体の断面を撮影する装置です。列の数が多ければ、同じ断面をより短時間で、より細かく撮影することができます。現在は高画質機が保有する台数です。	4台																				
	スウェーデン製	16列以上64列未満		0台																				
	スウェーデン製	16列未満		0台																				
	その他			0台																				
MRI	2T以上		MRIは、磁気を利用して、身体の断面を撮影する装置です。T1-T2-T3は、磁場の強さを異にする単位で、磁場の強いほど高画質の画像が得られます。現在は高画質機が保有する台数です。	0台																				
	1.5T以上2T未満			2台																				
	1.5T未満			0台																				

その他	血管連続撮影装置	血管連続撮影装置は、X線では検出しない血管の病変を撮影するために開発された。最近、造影剤が造影する領域で撮影	3台
	SPECT	SPECTは、特殊な撮像装置を使用して撮影することで、体の様々な部位の断面を生成します。さらに、脳血管や心疾患の診断に利用されます。現在は医療機関が保有する装置です。	2台
	PET	PETは、診断の精度を向上させるためにPETとCTを組み合わせた装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	PET/CT	PETMRIは、診断の精度を向上させるためにPETMRIを組み合わせた装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	PETMRI	ガンマカメラは、脳に造影剤を注射して撮影する装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	ガンマカメラ	サイバーナイフは、腫瘍にロボットアームで集中的に放射線を照射する装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	サイバーナイフ	強度変調放射線治療装置は、腫瘍に放射線を照射する装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	強度変調放射線治療装置	遠隔操作式密封小線源治療装置は、体の内側から放射線を照射する装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	遠隔操作式密封小線源治療装置	内視鏡手術用支援装置(ダヴィンチ)は、内視鏡からロボットアームを操作して手術を行う手術支援装置です。現在は医療機関が保有する装置です。	0台
	内視鏡手術用支援装置(ダヴィンチ)		

10中11頁目



過去1年間の間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間

(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	ICU	ICU	ICU	ICU	15病棟	22病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	13病棟
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
過去1年間の間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間	病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間は、平成27年1月1日～平成28年3月31日の期間中に病棟の再編・見直しを行ったことで、過去1年間の状況を報告することが困難な場合に、平成28年1月1日時点の病棟単位で報告が可能な過去の期間です。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[TOPへ戻る](#)

今晨者の入院患者の状況  
入院患者の状況(年別)

		(項目の解説)																				
		半期の入院患者の状況は、半期23年7月から半期24年6月までに入院、退院した患者数を示す項目です。																				
		施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
新入院患者数(年間)	うち多量入院の患者、院内の他病棟からの転院患者	20391人	430人	1979人	1822人	1111人	2399人	974人	2467人	44人	260人	281人	377人	1262人	937人	1462人	1299人	1833人	1567人	1327人	677人	
他院	うち多量入院の患者、院内の他病棟からの転院患者	14393人	423人	1166人	923人	484人	928人	474人	1099人	41人	233人	336人	432人	1100人	465人	1319人	1099人	1519人	1012人	1290人	637人	
	うち多量入院の患者以外からの転院患者	4445人	16人	249人	299人	366人	451人	106人	329人	0人	7人	2人	19人	462人	921人	320人	242人	322人	539人	215人	39人	
	うち多量入院の患者以外からの多量入院の患者	1739人	0人	133人	189人	81人	90人	109人	117人	0人	0人	0人	0人	18人	116人	25人	66人	134人	17人	17人	2人	
保健事業等(年間)	うち多量入院の患者以外からの多量入院の患者	4445人	1381人	1149人	1038人	4453人	1542人	1545人	1434人	75人	1189人	1075人	1181人	1449人	1050人	1440人	1341人	1538人	1447人	1332人	1179人	
退院患者数(年間)		20392人	437人	1981人	1827人	1112人	2404人	989人	2471人	44人	260人	287人	389人	1377人	917人	1461人	1299人	1824人	1589人	1382人	679人	

入院患者の状況(月間)／入院前の場所・退院先の場所の状況

		(項目の解説)																				
		1か月の入院患者の状況は、半期24年6月に入院を挙げ入れた患者の入院前の場所、退院した患者の退院先の場所を示す項目です。																				
		施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
11月	新入院患者数(1ヶ月間)	13815人	30人	132人	105人	81人	191人	82人	190人	0人	0人	0人	0人	146人	87人	145人	127人	165人	142人	119人	48人	
	入院前の場所	うち院内の他病棟からの転院	272人	4人	22人	4人	6人	3人	7人	0人	0人	0人	0人	0人	14人	28人	0人	22人	14人	41人	8人	35人
		うち多量入院の患者	1489人	4人	112人	103人	80人	77人	106人	0人	0人	0人	0人	0人	7人	22人	56人	35人	86人	106人	106人	17人
		うち急病棟、急病棟からの入院	41人	0人	3人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち急病棟、重症加療からの入院	19人	0人	0人	0人	3人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	0人	1人	0人
		うち急病棟の転院	15人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	退院先の場所	うち院内の他病棟へ転院	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち急病棟へ退院	1380人	40人	125人	102人	111人	72人	110人	0人	0人	0人	0人	0人	138人	88人	127人	128人	160人	141人	116人	48人
		うち急病棟、急病棟へ転院	272人	40人	22人	0人	0人	2人	17人	0人	0人	0人	0人	0人	150人	172人	39人	20人	15人	25人	7人	12人
		うち急病棟、重症加療へ入院	1489人	0人	122人	104人	80人	86人	86人	0人	0人	0人	0人	0人	119人	41人	58人	31人	140人	114人	123人	45人
うち急病棟の転院		41人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
退院先の場所	うち急病棟へ入院	4人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	うち急病棟へ入院	2人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	うち急病棟へ入院	19人	0人	0人	0人	4人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	
	うち急病棟へ入院	15人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

退院後に在宅医療が必要とする患者の状況

		(項目の解説)																				
		退院後に在宅医療が必要とする患者の状況は、半期24年6月の1か月の間に退院した患者に対する、在宅医療の提供の必要に際する項目です。																				
		施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
退院患者数(1ヶ月間)	退院後1か月以内に自院が在宅医療を提供する患者の患者数	1392人	0人	12人	10人	10人	7人	10人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	11人	10人	
	退院後1か月以内に他施設が在宅医療を提供する患者の患者数	17人	0人	1人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	2人	2人	0人	1人	2人	
	退院後1か月以内に在宅医療が必要となる患者(在宅医療提供)の患者数	1409人	0人	13人	10人	11人	8人	11人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	1人	0人	0人	11人	11人	12人	
	退院後1か月以内に在宅医療の必要が未定の患者	2人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

**看取りを行った患者数**

※在宅療養又は病院の届出を行っている病院のみが報告する事項です。

	(項目の解説)	高併全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	NICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
過去1年間で在宅療養を届出した患者のうち、診療期間以外での看取り(在宅)	看取りとは、患者の医師まで死亡(臨終)に付与することないです。 帰は、平成27年7月から平成28年6月までの1年間に在宅療養を届出し、看取りまで受診した患者について、その看取りも行った場所や数を示しています。	—																				
過去1年間で在宅療養を届出した患者のうち、診療期間以外での看取り(在宅)		—																				
過去1年間で在宅療養を届出した患者のうち、診療期間以外での看取り(在宅)		—																				
過去1年間で在宅療養を届出した患者のうち、診療期間以外での看取り(在宅)		—																				
過去1年間で在宅療養を届出した患者のうち、診療期間以外での看取り(在宅)		—																				

[TOPへ戻る](#)

◆医療内容に関する情報（手術、リハビリテーションの実施状況など）  
手術の状況

手術部位	手術の状況	(項目の解説)	施設全体 手術件数	23病棟		24病棟		25病棟		26病棟		27病棟		28病棟		CCU	ICU	SCU	NICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	13病棟	
				手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数															
手術部位 臓器別の状況	皮膚・皮下組織	手術の状況は、手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	229	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	筋骨格系・四肢・体幹		1179	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神経系・感覚		109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼		1168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳鼻咽喉科		298	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器・消化器・泌尿器		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肺臓		118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心臓血管		1468	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部		2238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器・泌尿器		278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器		278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器・泌尿器		118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器		118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術部位 臓器別の状況	皮膚・皮下組織	全身麻酔の手術の状況は、全身麻酔を用いて手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	2278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
筋骨格系・四肢・体幹			388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
神経系・感覚			4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
眼			1168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科			298	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器・消化器・泌尿器			4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺臓			108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心臓血管			1468	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腹部			2238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器・泌尿器			278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
泌尿器			278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
泌尿器・泌尿器			118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
泌尿器			118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人工心臓を用いた手術		人工心臓を用いた手術とは、心臓手術などの際に心臓と肺の機能を代行する装置を用いて行う手術です。従ってこの手術数は心臓手術です。	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸腔鏡下手術	胸腔鏡下手術とは、胸部を切り開くことはせず、胸部に開けた小さな穴から、胸部内の内臓臓器などの器具を入れて行う手術です。従ってこの手術数は心臓手術です。	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腹腔鏡下手術	腹腔鏡下手術とは、腹部を切り開くことはせず、腹部に開けた小さな穴から、腹部内の内臓臓器などの器具を入れて行う手術です。従ってこの手術数は心臓手術です。	578	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

がん、脳卒中、心臓疾患、分科、精神医療への対応状況

(がん)

	(項目の解説)	施設全体 高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
急性期手術	急性期手術とは、がんを切除するための手術です。腫瘍外科 科に属する手術です。	73床	※	0床	※	0床	※	16床	0床	※	0床	0床	14床	0床	15床	※	0床	10床	※	0床	16床	0床
病理科組織本作製	病理科とは、患者の身体から採取した腫瘍や組織等を顕 微鏡や病理学的検査、免疫染色の検査等により診断す る。がんの診断に不可欠な検査機関です。	227床	※	0床	0床	37床	※	21床	21床	※	26床	0床	0床	0床	42床	※	※	22床	20床	※	36床	※
病中迅速病理組織本作製	病中迅速病理とは、病気の進行・悪化の判断や治療効果 の判定、手術前・手術中に病理診断を必要とする。心 臓の高度急性期治療等、緊急時に必要です。	※	※	0床	※	0床	0床	0床	※	※	0床	※	※	0床	0床	0床	0床	※	※	0床	0床	0床
放射線治療	放射線治療とは、がんを放射線で治療することです。腫 瘍科に属する治療です。	※	※	0床	0床	0床	0床	※	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
化学療法	化学療法は、がん細胞を殺す薬物を用いて、小さくしたり 増やさないようにしたり、増殖を抑えたり、小さくしたり する治療です。腫瘍科に属する治療です。化学療法 は、がん細胞を殺す薬物を用いて、小さくしたり、増殖 を抑えたり、増やさないようにしたり、増殖を抑えたり する治療です。腫瘍科に属する治療です。	129床	※	0床	※	0床	※	16床	51床	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	30床
がん患者指導管理1及び2	がん患者指導管理とは、がんの患者が、診断結果や治療 方針を理解し、納得して治療を受けることができるよう、専門 的な指導を行う医師や看護師が、文字での説明や図解、手 書きでの説明などを行うことです。腫瘍科に属する治療 です。	※	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
抗がん剤副作用管理特設注入	抗がん剤副作用管理特設注入とは、がんの患者に対して、カ ンサー（癌）の副作用を軽減するための特設注入です。腫 瘍科に属する治療です。	※	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
肝動脈注を併用抗がん剤治療肝動脈内注入	肝動脈注を併用抗がん剤治療肝動脈内注入とは、肝臓の がん細胞を殺す薬物を用いて、小さくしたり、増殖を抑 えたり、増やさないようにしたり、増殖を抑えたりする 治療です。腫瘍科に属する治療です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

(脳卒中)

	(項目の解説)	施設全体 高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
急性期脳卒中加算	急性期脳卒中加算は、脳梗塞の患者に対して、急性期 治療を行う医師や看護師が、文字での説明や図解、手 書きでの説明などを行うことです。腫瘍科に属する治療 です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
脳血管内手術	脳血管内手術とは、脳梗塞の原因となる血管の狭窄を 開通させる手術です。脳神経外科に属する治療です。	※	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

(心臓疾患)

	(項目の解説)	施設全体 高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術とは、狭心症や心筋梗塞の患者に 対し、狭窄した冠動脈を拡張させるための治療です。 心臓科に属する治療です。	22床	12床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	17床	0床

(分科)

	(項目の解説)	施設全体 高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
分科別数(正常分娩、帝王切開を含む、産後を除く)	分科別数とは、分娩を行った患者数です。	48床	0床	48床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

(精神医療)

	(項目の解説)	施設全体 高度急性期	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	HCU	ICU	NCU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	12病棟	
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
入院精神療法(1)	入院精神療法とは、精神疾患の患者に対して、治療 計画に基づいて治療を行うことです。精神科に属する 治療です。	※	※	0床	※	0床	※	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
精神科リエンターム加算	精神科リエンターム加算は、精神疾患の患者に対して、精神 科医や専門の看護士が、多職種チームとして治療 を行うことです。精神科に属する治療です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
認知症ケア加算1	認知症ケア加算は、身体疾患の治療を必要とする認知症の 患者に対して、精神科医や専門の看護士が、多職種 チームとして治療を行うことです。精神科に属する 治療です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
認知症ケア加算2	認知症ケア加算は、身体疾患の治療を必要とする認知症の 患者に対して、精神科医や専門の看護士が、多職種 チームとして治療を行うことです。精神科に属する 治療です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
精神疾患診療体制加算1及び2	精神疾患診療体制加算は、身体疾患を有する精神疾患 患者の診断の受け入れや、緊急搬送された精神科患者の 治療を行うことです。精神科に属する治療です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
精神疾患診療体制加算(救命救急入院科)	精神疾患診療体制加算は、自殺念慮等による重篤な患 者に対し、精神疾患にかかわる影響治療を行っているこ とを示す患者数です。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

重症患者への対応状況

	(項目の解説)	重症患者													13病棟							
		高血圧	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	ICU	HCU	ICU	NCU	15病棟		33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	
ハイリスク分岐管理加算	ハイリスク分岐管理加算とは、重症や病室が分岐的・急性な状態にあるリスクが高い状態に対し、帝王切開などの緊急処置を必要とする分岐管理を行っていることを必ずしも指す。必ずしもハイリスク分岐管理とは異なる。	*	*																			
ハイリスク経導線共同管理料(Ⅱ)	ハイリスク経導線共同管理料(Ⅱ)は、上記のうち経導線について、医師と看護師が連携して、必要に応じてハイリスク状態での治療を行うことを指す。必ずしもハイリスク状態での治療を行うことを指す。																					
緊急搬送診療料	緊急搬送診療料は、患者が重症患者と判断された場合、搬送の必要性から、その搬送を要する状態に於いて搬送を行うこととする。搬送料は、搬送を行うこととする。搬送料は、搬送を行うこととする。																					
緊急動脈圧測定	緊急動脈圧測定は、重症患者の動脈圧を測定する目的で、血管にカテーテルを挿入して動脈圧を測定する検査です。搬送検査が行われます。	*	*	*																		
持続経管式血液濾過	持続経管式血液濾過は、急速に腎臓の機能が低下した急性腎不全や慢性腎不全、肺病等に併発している患者から、過剰な水分や毒素を除去して体液調整を行う治療です。搬送検査が行われます。	*	*	*	*								*									
大動脈バルーンポンピング法	大動脈バルーンポンピング法は、急性心臓発作の患者に対し、バルーンポンピングの介入によって、冠動脈の血流を増加させ、心臓の機能を改善させる治療法です。搬送検査が行われます。	*	*	*	*							*										
経皮的心臓補助法	経皮的心臓補助法は、心臓機能の低下による急性心不全や慢性心不全、肺病等に併発している患者から、心臓機能を補助し、血流を増加させる治療法です。搬送検査が行われます。	*	*	*	*							*										
補助人工心臓・経口経腸栄養人工心臓	補助人工心臓・経口経腸栄養人工心臓は、重症患者の心臓機能を補助し、血流を増加させる治療法です。搬送検査が行われます。																					
経管内圧持続測定(持続を越えた場合)	経管内圧持続測定は、重症患者の経管内圧を測定する目的で、経管内にカテーテルを挿入して経管内圧を測定する検査です。搬送検査が行われます。																					
人工心臓	人工心臓は、重症患者の心臓機能を補助し、血流を増加させる治療法です。搬送検査が行われます。	*	*									*										
血液交換療法	血液交換療法は、重症患者の血液を交換し、毒素を除去して体液調整を行う治療法です。搬送検査が行われます。																					
吸着式血液浄化法	吸着式血液浄化法は、重症患者の血液中の毒素を吸着して除去する治療法です。搬送検査が行われます。																					
血液成分除去療法	血液成分除去療法は、重症患者の血液中の毒素を除去して体液調整を行う治療法です。搬送検査が行われます。																					

達成率の算出に用いた評価項目の種別	評価項目																		
	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目	新項目				
「77期」入院基本料、「105期」入院基本料、「看護必要度加算」、「一般病棟看護必要度評価加算」、「急性期看護補助体制加算」、「看護職員夜間配置加算」、「看護補助加算」の算出を行っている場合における	一般病棟用の重症度、看護-看護必要度の基準を満たす患者の割合は、看護-看護必要度の必要性(A得点)や身体機能の低下(B得点)、平時の在宅状況(C得点)を基礎の評価票を用いて評価しています。割合が高いほど、必要な看護強度やケアの増長が多いことを示します。																		
A得点1点以上の患者割合	-	40%	-	32%	28.1%	61.3%	39.4%	-	-	-	-	39.6%	25.2%	47.4%	67.9%	32.8%	70.0%	51.8%	19.0%
A得点2点以上の患者割合	-	32%	-	11.7%	18.0%	55.6%	22.3%	-	-	-	-	28.2%	16.7%	33.4%	41.6%	20.0%	39.2%	40.1%	7.1%
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	-	29.1%	-	7.8%	10.0%	25.0%	16.0%	-	-	-	-	16.2%	12.8%	23.1%	19.6%	9.2%	31.6%	19.0%	1.8%
A得点3点以上の患者割合	-	24.1%	-	5.0%	9.1%	12.4%	8.9%	-	-	-	-	12.2%	5.8%	11.0%	17.1%	8.8%	16.2%	17.2%	1.2%
C得点1点以上の患者割合	-	48.6%	-	2.4%	7.6%	0.2%	4.8%	-	-	-	-	10.7%	3.2%	25.2%	15.7%	5.2%	9.4%	14.0%	3.6%
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上、A得点3点以上またはC得点1点以上の患者割合	-	49.1%	-	10.4%	18.0%	28.3%	20.8%	-	-	-	-	24.2%	16.3%	38.2%	31.0%	14.1%	38.6%	25.8%	6.1%
「地域包括ケア連携施設」、「地域包括ケア入院患者管理料」の算出を行っている場合における、一般病棟用の重症度、看護-看護必要度の基準を満たす患者の割合	-																		
A得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A得点2点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A得点3点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上、A得点3点以上またはC得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
「看護制」が1つ以上の入院基本料「1」の算出を行っている場合における、一般病棟用の重症度、看護-看護必要度の基準を満たす患者の割合	-																		
A得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A得点2点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A得点3点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重症度、看護-看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上、A得点3点以上またはC得点1点以上の患者割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「総合入部制加算」の算出を行っている場合における、 一般医科別の算定率、算定率・算定率の差を比較する患者の割合																			
A得点1点以上の患者割合	-	40.9%	-	32.6%	26.1%	61.2%	33.4%	-	-	-	-	39.6%	25.2%	47.6%	67.9%	32.8%	70.0%	57.8%	19.0%
A得点2点以上の患者割合	-	33.2%	-	11.7%	18.6%	55.6%	22.5%	-	-	-	-	28.2%	16.7%	33.4%	41.4%	20.0%	39.3%	40.1%	7.1%
算定率、算定率・算定率の差の範囲において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	-	29.1%	-	7.8%	10.0%	25.0%	16.0%	-	-	-	-	16.2%	12.8%	23.1%	19.6%	9.2%	31.6%	19.0%	1.8%
A得点3点以上の患者割合	-	24.1%	-	5.0%	9.1%	12.4%	4.9%	-	-	-	-	12.2%	5.8%	11.5%	17.1%	8.9%	16.3%	17.2%	1.2%
C得点1点以上の患者割合	-	48.6%	-	2.4%	7.6%	0.2%	4.8%	-	-	-	-	10.7%	9.2%	25.3%	15.7%	5.3%	8.4%	14.0%	3.6%
算定率、算定率・算定率の差の範囲において、A得点2点以上かつB得点3点以上、A得点3点以上またはC得点1点以上の患者割合	-	49.1%	-	10.4%	18.5%	28.3%	20.8%	-	-	-	-	24.2%	16.3%	38.7%	31.0%	14.1%	38.6%	25.8%	6.1%



救急医療の実況状況

(項目の解説)		施設全体	CCU		23病棟		24病棟		25病棟		26病棟		27病棟		28病棟		CCU		ICU		15病棟		33病棟		34病棟		35病棟		36病棟		37病棟		38病棟		13病棟		
			高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	
院内リハビリ施設	院内リハビリ施設は、夜間や休日・夜間に要請を受けた救急患者に対し、その対応を図り、事後の報告項目(院内リハビリ)を行っていることを示す項目です。値はリハビリ実施患者数です。	*	*	0件	0件	*	*	*	0件	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	*	*	*	0件	*	0件	*	0件	*	0件	*	0件	*	0件	*	0件
夜間休日救急搬送患者管理科	夜間休日救急搬送患者管理科は、夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、夜間・休日等に救急搬送された患者数(リハビリ)を意味します。他患者に救急搬送された患者の数を示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6ヶ月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒)を疑われる患者数です。	*	*	*	0件	*	*	*	0件	*	0件	*	*	*	0件	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	0件	
精神科疾患患者受入加算	精神科疾患患者受入加算は、夜間や休日等に救急搬送される急性薬物中毒の患者に対応していることを示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6ヶ月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒)を疑われる患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
救急医療管理加算1及び2	救急医療管理加算は、救急搬送、救急患者の要請を受けた患者の救急搬送を意味する項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、急性薬物中毒(アルコール中毒)を疑われる患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒)を疑われる患者数です。	331件	*	0件	15件	*	32件	38件	*	40件	0件	0件	0件	0件	*	45件	33件	29件	14件	24件	30件	25件	*														
在宅患者緊急入院診療加算	在宅患者緊急入院診療加算は、在宅での救急科に要請を受けた患者が、入院が必要となった場合に、患者の要請を踏まえた医師が当該患者を診察し、他の診療科と連携する取組を行っていることを示す項目です。値は、他の診療科との連携が図られた患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
休日に受診した患者延べ数	休日に受診した患者延べ数は、休日(日曜、祝日、年末年始)に受診した患者数を、そのうち診療後に入院した患者数を示します。	7,281人																																			
	うち診療後直ちに入院となった患者延べ数	1,248人																																			
夜間・休日に受診した患者延べ数	夜間・休日に受診した患者延べ数は、夜間・休日に診療科目が表示される診療時間(5分以内)に受診した患者数を、そのうち診療後に入院した患者数を示します。	12,853人																																			
	うち診療後直ちに入院となった患者延べ数	2,716人																																			

救命車の突入件数	救命車の突入件数は、救命車や救急医療機関ヘリコプター等により搬送された患者の人数と異なる。	4,198件																		
救命のための気管挿管	気管挿管とは、気道確保を行うためのチューブを口から挿入する処置です。直に救命処置として気管挿管を伴った処置は稀です。	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
体表電気ショック療法又は食道電気ショック療法	体表電気ショック療法は、胸郭または食道内に電極をおき、電流をかけて心臓を電気刺激する処置です。直に処置を伴った処置は稀です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
深部胸骨圧迫	深部胸骨圧迫は、胸郭を強く叩く等の手技を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。直に処置を伴った処置は稀です。	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
カウテンショック	カウテンショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器を用いて、心臓に電気ショックをあたえ、正常な状態に戻す処置です。直に処置を伴った処置は稀です。	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
心臓穿刺	心臓穿刺は、心臓を直に心臓に針を刺し、心臓に貯まった液体を排出する処置です。直に処置を伴った処置は稀です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に対し、圧迫目的でチューブを挿入する処置です。直に処置を伴った処置は稀です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況

(項目の解説)		施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	22病棟	24病棟	25病棟	27病棟	28病棟	29病棟			
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期		
退院支援加算1	退院支援加算は、患者が安心・納得して退院し、早期に在宅復帰や地域で生活を継続できるように、地域間の連携を推進し、工夫で退院支援を実施していることを示す項目です。単位は退院支援を行った患者数です。	164名	※	0名	*	*	12名	26名	*	17名	0名	0名	0名	0名	*	29名	29名	*	10名	*	12名	23名	
退院支援加算2		0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
急性・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算	急性・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算は、急性期の治療を終え、経過が安定した患者や、急性・介護施設等での療養中に発熱などにより、入院が必要となり、患者を受け入れる施設を行っていることによる項目です。単位は1泊1名を基準とし、1名を1単位とします。	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
地域連携診療計画加算(退院支援加算)	地域連携診療計画加算は、退院支援加算における退院支援を行う際に、病院や介護サービス事業者等に診療情報を共有し、連携し、いかに在宅復帰を促すこと、単位は、診療情報交換が実施された患者数です。	24名	※	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	13名	11名	0名	0名	0名	0名	0名	*	
退院時共同指導料2	退院時共同指導料は、退院時に在宅で療養する患者について、入院している医療機関の医師等が退院後の在宅療養をサポートする目的で、退院前に行っている指導を指す項目です。単位は、退院前に行われた指導1名を1単位とします。退院後の在宅療養に必要な指導は、退院時共同指導料として算入されません。	*	※	0名	0名	0名	*	*	0名	*	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	*	0名
介護支援連携指導料	介護支援連携指導料は、退院時の在宅療養に必要な指導を行うこと、単位は指導1名を1単位とします。退院後の在宅療養に必要な指導は、退院時共同指導料として算入されません。	*	※	0名	0名	0名	*	*	*	*	0名	0名	0名	*	*	*	*	*	*	*	0名	*	0名
退院時リハビリテーション指導料	退院時リハビリテーション指導料は、退院時の在宅療養に必要な指導を行うこと、単位は指導1名を1単位とします。退院後の在宅療養に必要な指導は、退院時共同指導料として算入されません。	127名	※	0名	*	*	*	*	16名	0名	0名	0名	0名	13名	19名	*	14名	14名	*	30名	19名		
退院訪問指導料	退院訪問指導料は、退院後の在宅療養に必要な指導を行うこと、単位は指導1名を1単位とします。退院後の在宅療養に必要な指導は、退院時共同指導料として算入されません。	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	

全身管理の状況

	(項目の解説)	施設全体		CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	12病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等
中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的で、血液量が多く流れにくい部位にある大静脈(中心静脈)に注射を行います。通常は右の頸静脈(右心房)に注射し、その呼吸や心拍数の変化を継続的に監視する義務があります。血栓の発生防止が重要となります。	22件	*	*	0件	*	*	*	12件	*	0件	0件	*	*	10件	0件	0件	*	0件	*	0件	0件	0件
呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重症心臓病や呼吸器障害を有する患者に対し、その呼吸や心拍数の変化を継続的に監視する義務があります。血栓の発生防止が重要となります。	235件	*	0件	*	0件	*	18件	10件	22件	0件	0件	0件	0件	21件	22件	13件	16件	10件	82件	21件	0件	
静脈吸入	静脈吸入は、呼吸器障害で酸素が不足した状態の患者に対し、酸素を静脈から吸入させる治療です。血栓の発生防止が重要となります。	175件	*	0件	*	0件	10件	15件	*	17件	0件	*	0件	0件	22件	16件	*	18件	25件	21件	21件	*	
観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)	観血的動脈圧測定は、重症患者の血圧調節のために、動脈に管を挿入し、継続的に血圧を測定する検査です。血栓の発生防止が重要となります。	*	*	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	*	0件	*	*	0件	*	*	*	*	*	0件
ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレーン法は、手術後の患者に対して、腫瘍や膿瘍に管を挿入し、体腔内に溜まった液体、膿、血液や出血などを体外に排出する治療です。胸腔・腹腔洗浄は、腫瘍、膿瘍に對する洗浄、消毒、炎症を抑制する治療です。血栓の発生防止が重要となります。	128件	*	*	0件	*	*	*	*	0件	*	*	0件	18件	*	41件	29件	17件	*	23件	*		
人工呼吸(8時間を越えた場合)	人工呼吸は、呼吸の力が弱った患者に対し、機械を使って呼吸の補助を行います。過剰な酸素供給や血栓の発生防止が重要となります。	106件	*	0件	*	0件	0件	0件	*	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	*	0件	10件	*	0件	
人工腎臓、膀胱洗浄	人工腎臓、膀胱洗浄のうち、人工腎臓は、透析液を人工的に濾すことによって、血中の老廃物や水分を除去し、体内環境を正常化する治療です。膀胱洗浄は、尿管やカテーテルの感染を予防するために、膀胱内の水分を交換する治療です。血栓の発生防止が重要となります。	39件	*	0件	0件	0件	39件	*	*	*	0件	0件	0件	0件	*	*	*	*	*	*	0件	0件	
経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、経口経管栄養(経口・経鼻)の栄養摂取が難しい患者に対して、経管栄養カテーテルを交換する治療です。血栓の発生防止が重要となります。	*	*	0件	0件	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

リハビリテーションの費用状況

		(項目の解説)													施設全 保	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	32病棟	34病棟	35病棟	36病棟	37病棟	38病棟	12病棟			
															高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等			
疾患別リハビリテーション料		疾患別リハビリテーション料は、患者の病態や状態に応じた、リハビリテーションの必要期間を算定する。	440円	*	*	*	32円	*	16円	31円	*	*	*	0円	38円	67円	90円	32円	25円	16円	46円	44円															
	心大血管疾患等リハビリテーション料	心大血管疾患等リハビリテーション料は、心臓病、肺疾患、慢性心不全等の患者に対し、必要心臓病の回復、病態の改善や予後等を改善するために行うリハビリテーションです。またはリハビリテーションによる病態改善です。	12円	*	*	0円	0円	*	0円	0円	*	0円	0円	*	0円	0円	*	0円	0円	*	0円	0円	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	脳血管疾患等リハビリテーション料	脳血管疾患等リハビリテーション料は、脳梗塞、脳出血等の障害に対し、必要な基本動作能力、日常生活動作等の回復を促すために行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	124円	*	0円	0円	0円	13円	*	*	23円	0円	*	*	0円	*	63円	23円	*	*	*	*	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	後発症状等リハビリテーション料	後発症状等リハビリテーション料は、基本動作能力の回復、歩行や日常生活動作の回復を促すために行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションを行った結果です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	運動器リハビリテーション料	運動器リハビリテーション料は、骨格損傷による四肢麻痺、関節拘縮(心臓病でなくても)等の障害が原因で生じた状態、歩行の改善に際して、必要となる動作能力等の回復を促すために行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	175円	*	*	*	16円	*	*	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	17円	*	69円	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	呼吸器リハビリテーション料	呼吸器リハビリテーション料は、肺炎、肺腫瘍、慢性呼吸器疾患等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸器機能を回復させるために行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	17円	*	0円	0円	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	障害児(童)リハビリテーション料	障害児(童)リハビリテーション料は、脳性麻痺、発達障害等の患者に対し、必要に応じて行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	がん患者リハビリテーション料	がん患者リハビリテーション料は、がんの患者に対し、治療の過程で生じた能力低下、障害等の改善を目的として行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	23円	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	11円	0円	0円	0円	12円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	認知症等リハビリテーション料	認知症等リハビリテーション料は、患者の認知症等に対し、必要な認知機能の回復を促すために行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	早期リハビリテーション加算(リハビリテーション料)	早期リハビリテーション加算は、治療開始後の早期回復を促すために、治療開始日から14日以内に行うリハビリテーションを行う場合に算定されます。またはこの早期リハビリテーションによる病態改善です。	375円	*	*	*	29円	*	30円	*	*	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円		
	初期加算(リハビリテーション料)	初期加算は、治療開始後の初期回復(治療開始日から14日以内)に行うリハビリテーションを行う場合に算定されます。またはこの初期加算による病態改善です。	327円	*	*	*	24円	*	26円	*	*	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	障害機能療法	障害機能療法は、食・心機能(障害機能)が低下している患者に対し、症状に応じて行うリハビリテーションです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	96リハビリテーション加算(回復期96リハビリテーション病棟入院料)	リハビリテーション加算は、より多くのリハビリテーションを集中的に行うことで病態改善を促すことです。またはこのリハビリテーションによる病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	休日96リハビリテーション提供体制加算(回復期96リハビリテーション病棟入院料)	休日96リハビリテーション提供体制加算は、休日・夜間時間帯にリハビリテーションを提供できるように職員配置がなされている場合に算定されます。またはこの休日96リハビリテーションによる病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	入院時訪問指導加算(96リハビリテーション総合評価料)	入院時訪問指導加算は、医師・看護師等が、患者が退院後に引き続き自宅での回復を促すために、その自宅や家族の状況等を踏まえてリハビリテーション指導計画を策定している場合に算定されます。またはこの入院時訪問指導による病態改善です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	

	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	15病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期
(項目の略称)																					
体制強化加算1又は2(回復期リハビリテーション病棟入院料)の算出の有無	体制強化加算は、患者の早期の機能回復や退院を促進するために、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す指標です。詳しくは添付した添付書類をご覧ください。																				
リハビリテーションを実施した患者の割合	リハビリテーションを実施した患者の割合は、入院患者のうち、検査や処置に必要のリハビリテーションが実施された患者の割合です。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均リハビリテーション単位数(1患者1日当たり)	平均リハビリテーション単位数は、上記の患者に列したリハビリテーションの平均的量を示す値です。20分実施した場合は1単位数となります。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
過去1年間の総退院患者数	過去1年間の総退院患者数は、平成27年7月から平成28年6月までの1年間に退院した患者の数を、日常生活機能評価に応じた患者の数を示します。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55入院時の日常生活機能評価10点以上の患者数	日常生活機能評価とは、歩行、起き上がりなど日常生活で必要な動作について、1点から5点までの評価を行います。5点以上(※)改善していた患者数を示します。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	※回復期リハビリテーション病棟入院料の算出は4点以上です。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
回復期リハビリテーション病棟を退院した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数【平成28年1月1日～6月30日の6か月間】	回復期リハビリテーション病棟を退院した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数は、平成28年1月から6月までの6か月間に退院した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数と、回復期リハビリテーションの実績評価結果は、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績と評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55累積病数の計算対象とした患者数【平成28年1月1日～6月30日の6か月間】	55累積病数の計算対象とした患者数は、平成28年1月1日から6月30日の6か月間、55累積病数の計算対象とした患者数を示します。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実績指標【平成28年1月1日～6月30日の6か月間】	実績指標は、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績と評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

長期療養病室の受入状況

	(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等
療養病棟入院基本料1、2(A~D)	療養病棟は、主として、長期にわたる療養を必要とする患者の入居を目的とする病棟です。慢性心不全に併発した腎臓不全による患者が主です。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
褥瘡予防処置加算(療養病棟入院基本料、有床診療所療養病棟入院基本料)	褥瘡予防処置加算は、褥瘡が病に起因する可能性のある患者について、褥瘡の予防や処置の観点から必要な処置を行っていることを示します。褥瘡予防処置は、定期的に行われ、身体の一部が長時間にわたって圧力を受けることにより生じることがあります。褥瘡予防処置は、褥瘡の発生を予防し、褥瘡の進行を遅延させることを目的としています。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
重症看護加算	重症看護加算は重症化した場合に必要となる看護を行います。重症看護加算は、重症化した場合に必要となる看護を行います。重症看護加算は、重症化した場合に必要となる看護を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
重症治療管理加算	重症治療管理加算は、重症化した場合に必要な治療管理を行います。重症治療管理加算は、重症化した場合に必要な治療管理を行います。重症治療管理加算は、重症化した場合に必要な治療管理を行います。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

重症の療養病室の受入状況

	(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等
重症特別入院診療加算	重症特別入院診療加算は、重症患者や感染症患者等の重症患者の入院診療を行います。重症特別入院診療加算は、重症患者や感染症患者等の重症患者の入院診療を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
特殊疾患入院診療加算	特殊疾患入院診療加算は、重症の障害者、特殊な患者の入院診療を行います。特殊疾患入院診療加算は、重症の障害者、特殊な患者の入院診療を行います。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
重症症(重)入院診療加算・重症症(重)入院診療加算	重症症(重)入院診療加算は、重症症(重)患者の入院診療を行います。重症症(重)入院診療加算は、重症症(重)患者の入院診療を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
障害児(者)リハ(再掲)	障害児(者)リハは、障害児(者)の療養を行います。障害児(者)リハは、障害児(者)の療養を行います。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
強硬行動障害入院診療加算	強硬行動障害入院診療加算は、強硬行動障害患者の入院診療を行います。強硬行動障害入院診療加算は、強硬行動障害患者の入院診療を行います。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

病室費の滞滞状況

	(項目の解説)	施設全体	CCU	23病棟	24病棟	25病棟	26病棟	27病棟	28病棟	CCU	ICU	ICU	ICU	15病棟	33病棟	34病棟	35病棟	36病棟	27病棟	38病棟	13病棟	
		高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	高度急性期	保種中等
病室清掃加算(栄養サポートチーム加算)	病室清掃加算は、入院中の患者の病室の清掃を行います。病室清掃加算は、入院中の患者の病室の清掃を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
病室開口部機能管理後手術加算	病室開口部機能管理後手術加算は、手術後の病室の機能管理を行います。病室開口部機能管理後手術加算は、手術後の病室の機能管理を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
病室開口部機能管理料(Ⅱ)	病室開口部機能管理料(Ⅱ)は、がん等の手術を受けた患者の病室の機能管理を行います。病室開口部機能管理料(Ⅱ)は、がん等の手術を受けた患者の病室の機能管理を行います。	* ※	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
病室開口部機能管理料(Ⅲ)	病室開口部機能管理料(Ⅲ)は、がん等への放射線治療を受けた患者の病室の機能管理を行います。病室開口部機能管理料(Ⅲ)は、がん等への放射線治療を受けた患者の病室の機能管理を行います。	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円